



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	株式会社サカタのタネ掛川総合研究センター新研究棟建設工事	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	------------------------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.8 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	1.8 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつつ 3点以上 がんばろう 3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)	得点	3.3
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①窓システムSC:0.35、U=3.36(W/m2K)程度、外壁その他:U=0.60(W/m2K)	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。	Q-3 1 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPIm=0.68。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑪ 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 ⑫床ポニル床タイル、断熱材。 ⑬LGS使用している。 ⑬ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑫ 雨水利用システム導入の有無 ⑬ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑭ 材料使用量の削減 ⑮ 既存建築躯体等の継続使用 ⑯ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑰ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑱ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑳ 有害物質を含まない材料の使用 ㉑ 消火剤 ㉒ 断熱材 ㉓ 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率が81%。	LR-3 1 2 2.2 ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)	得点	2.8
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑲ 電気設備 ⑲ 機械・配管支持方法 ⑲ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	得点	2.8
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高:3.7m以上、3.9m未満。 ⑲0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 特になし。	Q-3 3 3.1 ⑲	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	得点	1.8
■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。	Q-3 1 2 3 3.2 ⑥	⑲ 生物環境の保全と創出 ㉑ まちなみ・景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし。	LR-2 2 2.5 ⑲ LR-3 2 2.2 ⑮	⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_通称版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社サカタのタネ掛川総合研究センター新研究棟建設工事	階数	地上3F
建設地	静岡県掛川市高田字溝ノ口原882番1外8筆	構造	S造
用途地域	用途地域の指定のない区域、防火地域指定なし	平均居住人員	250人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2025年11月21日
敷地面積	1,981 m ²	作成者	山本 陽介
建築面積	1,331 m ²	確認日	
延床面積	3,152 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

排出量: 0, 46, 92, 138 (kg-CO₂/年+m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.9

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		その他 特になし。
Q1 室内環境 窓システムSC: 0.35、U=3.36(W/m ² K) 程度、外壁その他: U=0.60(W/m ² K) JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	Q2 サービス性能 階高:3.7m以上、3.9m未満。 0.1≦(壁長さ比率)<0.3	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m =0.68。	LR2 資源・マテリアル 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 床:ビニル系床材、断熱材。 LGS使用している。 ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が81%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される